

別紙

前年度の温室効果ガスの排出の量及び排出削減計画に基づき実施した措置の状況

氏名	(法人にあっては名称) 日本エクスラン工業株式会社		住所	(法人にあっては主たる事業所の所在地) 〒 530-0004 大阪市北区堂島浜二丁目 2 番 8 号	
本票作成	部署名：日本エクスラン工業 西大寺工場 工務部				
主たる業種	分類コード	11	業種名：繊維工業		
事業の概要	アクリル繊維生産量：30,000t/年 従業員数：300名				
県内の主な工場等	番号	工場等の名称		所在地	
	①	西大寺工場		岡山市東区金岡東町三丁目 3 番 1 号	
特定事業者の該当要件	<input checked="" type="checkbox"/> ①燃料等原油換算1,500kℓ以上 <input type="checkbox"/> ②バス・トラック100台、タクシー250台以上 <input checked="" type="checkbox"/> ③CO ₂ 換算3,000t以上 (●工場等の数 1 所 ●車両台数 (②該当の場合) 台)				

温室効果ガス排出量	基準年度(平成 26 年度)	(平成 28)年度排出量	目標年度(平成 31 年度)
	110,619 t CO ₂	101,879 t CO ₂	105,088 t CO ₂
主な工場等の排出量	番号	工場等の名称	(平成 28)年度排出量
	①	西大寺工場	101,879 t CO ₂
			t CO ₂
			t CO ₂
			t CO ₂
			t CO ₂

削減目標の達成状況	計画期間：平成 27 年度 ～ 平成 31 年度 (5 箇年度)			
	<input type="checkbox"/> 総排出量基準	(28) 年度削減実績	目標削減率	目標達成
	<input checked="" type="checkbox"/> 原単位基準	△ 23.4 %	5.0 %	<input type="checkbox"/> 達成 <input checked="" type="checkbox"/> 未達

(原単位基準の削減目標を選択している場合に記入)	温室効果ガスの排出量と密接な関係をもつ値の内容 生産数量 (当工場の主たる製品を生産するために要するエネルギーの原油換算量を基準として、製品ごとに換算したものの数値)	原単位当たり排出量		
		基準年度	(28) 年度	目標年度
		3,468 t CO ₂ /(千t)	4,281 t CO ₂ /(千t)	3,294 t CO ₂ /(千t)

(該当事業者のみ記入)

ベンチマーク指標の状況	対象事業の名称	ベンチマーク指標	関連数値(平成 28 年度)	達成率等

【削減状況の自己評価】

平成28年度の生産量は、基幹事業であるアクリル繊維事業の生産が当初計画より72%程度に留まり、前年実績比でも70%と大幅に落ち込んだ。そのため、結果的に総排出量は前年比で約13%削減となったが、排出原単位は23%の悪化となった。削減の取組としては生産工程の廃熱回収や効率改善、発電設備の省エネ等、計画に沿って実施してきたが、生産設備の停止は述べ2.5ヶ月にわたり、案件によっては当初の見込み効果が出ないものもあった。

【推進体制】

- ①省エネ対策委員会：工場長を委員長、各部長を委員とする工場全体会議（年2回開催）
 ②工場長の現場点検：副工場長、環境、工務部長も同行し安全の他、省エネについても点検する（毎週）
 ③コスト改善委員会：社長出席のコスト低減対策会議。その中で省エネ取組状況や実績の把握を行う（毎月）
 ④環境保全委員会：各部の環境改善目標に対する実績把握等を行う、工場長・部長出席の会議（毎月）

【目標削減率達成のために実施した措置及び今後の取組】

工場等の名称	実施した措置及び今後の取組の内容
西大寺工場	（平成28年度実施分） (1) アクリル製造工程 ・ゲル濾過設備の廃熱回収 (CO2削減量 434t/年) (2) アクリル製造工程 ・系列編成見直しによる効率向上 (CO2削減量 34t/年) (3) 照明のLED及び自動化 (CO2削減量 14t/年) （今後実施予定分） (1) 空気脱湿機 ・省エネ型ドライヤーへ更新（3台目） (CO2削減量 78t/年) (2) 発電所設備 ・ガスコージェネレーションシステム導入 (CO2削減量 42,920t/年) (4) 計装用空気圧縮機 ・インバーター機台へ更新 (CO2削減量 144t/年) (5) 重合設備 ・空調の放熱ロス防止 (CO2削減量 7t/年)

【森林保全等吸収源対策への取組】

県内での取組	無	
その他	無	

【再生可能エネルギーの導入】

県内での取組	有	2003年に産業廃棄物焼却設備を設置した。以後、付属の廃熱ボイラーで発生した蒸気を工場へ送気することで廃熱の有効利用を図っている。
その他	無	

【その他特記事項】

(1)2010年に自家用車（公用車）1台をハイブリッドカーに更新 (2)空調用電力・蒸気節減のため、クールビズ・ウォームビズ運動推進 (3)社内環境展を（1回/年）実施、省エネと環境負荷低減を従業員にPR (4)2017年2月 産業廃棄物焼却設備 老朽化により停止		
---	--	--